

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2015 年 10 月 25 日 VOL.38 第 275 号 定価 550 円
 発行 / AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail: member@amda.or.jp
 郵便振替: 01250-2-40709 口座名: 特定非営利活動法人アムダ

2015 年
秋号

秋

救える命があればどこへでも

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第6回 河野 真一郎様 (岡山県洋蘭協会副会長)

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-imic.com/>
 AMDA 兵庫
http://www.amdainternational.com/amda_hyogo/

AMDA との出会い 洋ラン栽培を通じて培った信頼

AMDA 本日はお忙しい中ありがとうございます。さて早速ですが、河野副会長と AMDA は創設以前からのつながりがあるとお聞きしましたが。

河野 はい、そうなんです。話しは設立以前、AMDA 創設者で現グループ代表の菅波茂氏のお父様、菅波堅次氏にまでさかのぼります。故・堅次氏は多くの趣味を持たれており、洋ランの栽培も大変熱心にされていました。その当時、ハーバード大学にアメリカ蘭協会があり会員であった我々も、世界中のランに関する論文、最新情報を得る事ができました。堅次氏も栽培や育種の研究を熱心にされ 1963 年英国王立園芸協会 (RHS) に新品種「サザナミ」を登録されました。本種は従来なかった美しい色彩のピンク系小型シンビジウムで、海外のラン展示会にも出品し、世界的に日本のランが注目され大いに話題となりました。私も種子を預かり、無菌培養から育生・開花に至るまで、この画期的な新品種の「サザナミ」作出に関わらせていただき光栄でした。

このつながりが、その後の AMDA さんとの活動のきっかけになっていると思います。



「サザナミ」とともに写真左から河野氏、菅波茂

AMDA を支えてくださっているご支援者の皆様に、インタビュー形式で様々なエピソードをお伺いしている「支える喜び」シリーズ。

第 6 回目となる今回は、岡山県洋蘭協会の副会長で、約 20 年にわたり、AMDA を継続的にご支援くださっている河野新一郎様にお話を伺いました。



生きがいである洋ランを通じて AMDA を支える喜び

AMDA なるほど。AMDA では「苦勞を共に乗り越えられる関係」こそが、真のパートナーシップ。信頼関係の形成には不可欠と考えています。お二人の苦勞から生まれた信頼関係は、かけがえのないものですね。

河野 今年 3 月に、開花した「サザナミ」を、AMDA の事務所にお持ちして茂さんにもお見せすることができました。大変喜んでいただけて、堅次氏との苦勞話などにも花を咲かせることができ、本当に嬉しかったです。

AMDA そこから時を経て、1996 年から今日に至るまで AMDA をご支援いただいていますね。毎年「洋蘭展」のたばにお声かけいただけることをスタッフ一同心から楽しみにしておりますし、感謝の気持ちでいっぱいです。

河野 そう言っていただけると、私達も光栄です。この 20 年あまり、毎年 1 回「春の洋蘭展」を開催しており、AMDA さんと共催という形でイベントを盛り上げています。会場の設営時から AMDA のスタッフや、ボランティアの皆さんにもご協力いただいて、パネル展示、募金箱の設置のほか、洋蘭協会のメンバーから提供させていただいたランの株や、様々な小物などをバザー販売したりしてくださっています。おかげさまで、展示会には毎年大勢の方にご来場頂いています。この展示会を通じて、私だけでなく洋蘭協会のメンバーそれぞれが、自分の生きがいともいえ

る「洋ラン」を通じて、誰かの役に立てる喜びを感じています。また会場に来てくださる AMDA スタッフやボランティアの方々との交流も、私にとっては楽しみの一つなんですよ。



2013 年開催の様子

AMDA とのパートナーシップ 洋ランと有機農業

AMDA 会場に伺うスタッフも毎年、美しい花と協会の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

河野 岡山県洋蘭協会を創立して来年 60 周年を迎えようとしており、次回は、2016 年 2 月に総社で「春の洋蘭展」の開催を計画しています。

そういえば、AMDA さんは新庄村で有機米を作られておられますよね。自然に学び、農業関係における植物と医療の関係についても、私たちの洋ランに関する知識がお役に立つことがあれば協力させていただきます。ともに深めていければいいですね。

AMDA それは心強いです。今日はお忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

総社市・AMDA合同プロジェクト 北関東豪雨災害 緊急支援活動

9月10日から11日にかけて、台風18号から変わった温帯低気圧の影響により、栃木県を中心とした北関東や東北の広い地域に豪雨被害が発生。家屋の浸水や堤防決壊、土砂災害による死者が出る大きな被害となりました。

このような状況の中、栃木県日光市長から総社市長への支援要請が入り、「AMDAグループと総社市との多文化共生に関する協定」に基づき合同チームを編成。総社市職員3名、AMDA医療チーム2名からなる一行は、12日夕方に日光市に到着しました。

少しずつ水が引きつつあるものの、

今後も降雨が予想される中、市職員も住民も不安な時を過ごしておられました。特に慣れない避難所生活で、不眠を訴える方も多くおられました。衛生用品や生活支援物資の備蓄が不足しており、持参した支援物資（大人用紙おむつ、タオル、外用湿布薬、マスクなど）は非常に喜ばれました。また、孤立しかけていた芹沢地区で新たに避難所となった保育園を訪れ、支援物資の寄贈のほか、避難者の血圧測定、服薬の有無の確認などの健康チェックを行うことができました。

日光市での活動の後には、鹿沼市を



避難所で声掛けを行う山河看護師

訪れ、浸水した家屋の片づけを手伝い、3日間の活動を終了しました。

なお、被害の大きさを鑑み、今後も現地の自治体と連絡を取りながら、必要な支援を提供していく予定です。

東日本復興支援事業

震災から4年半が経過しました。現在も復興の途中にある東日本大震災の被災地に対して、AMDAでは、「第2次復興支援3か年事業」として「医療・健康」「教育」「生活」を柱とした、様々な復興支援事業を継続しています。

被災地間相互交流 第10回復興グルメF-1大会 in 気仙沼



多くの方の笑顔があふれた大会会場の様子

7月19日に、第10回となる「復興グルメF-1大会」が宮城県の気仙沼復興商店街南町紫市場にて開催されました。（共催：第10回復興グルメF-1大会実行委員会、復興グルメF-1運営事務局）

2013年1月に、同じ気仙沼復興商店街南町紫市場を会場に第1回大会がスタートされてから2年半。宮城県、岩手県、福島県の沿岸地域をリレーする形でつながれた記念すべき第10回目の大会となりました。当日は、台風の影響もなく晴天に恵まれ、約2,500人の方々が気仙沼市内外から来場しました。岩手県、宮城県、福島県の9地域10チームが出店し、多くの人々の笑顔と絶品グルメが集まる心温まる大会となりました。次回大会は11月15日南三陸町で開催されます。

復興グルメ大会に岡山からもボランティアバスが運行！

第10回復興グルメF-1大会の開催に合わせて運行したボランティアバスに、岡山から約40人が参加しました。被災地の見学のほか、研修や大会の準備運営補助を行いました。被災地の皆さんと共に喜びを共有し、それぞれが達成感に満たされた顔で4日間の行程を締めくくりました。



全員で記念撮影

第11回復興グルメF-1大会に向けてボランティアさん募集！

11月15日に宮城県南三陸町の南三陸町スポーツ交流村を会場に、第11回復興グルメF-1大会を開催します。この大会に向けて岡山からのボランティアバスを運行します。大会と一緒に盛り上げませんか。皆様のご参加をお待ちしております。

日程	13日 20:00 岡山駅発 14日 ボランティア活動および現地見学研修 15日 グルメ大会運営ボランティア 16日 07:45 岡山駅着
参加費	大人 20,000円（会員 18,000円）、学生 15,000円
定員	40人

日本医師会合同 台湾粉じん爆発災害 重症熱傷患者支援事業



7月18日に行われた帰国会見の様子

6月27日に台湾で発生した粉じん爆発災害に対し、AMDAは日本医師会と合同で7月2日医師2名を台湾に派遣し医療調査を実施しました。

この調査情報を受けて、7月12日から15日の4日間で日本医師会から、日本集中治療学会、日本救急医学会、日本熱傷学会より6名の医療チームを台湾に派遣。医療支援活動を実施しました。

このような災害時お互いに支援しあって、より深い信頼関係を構築することを「災害支援外交」という言葉で表しています。本支援活動も、まさにこの「災害支援外交」、民間による信頼構築の一助となるものだと考えています。

ミャンマー洪水被害に対する緊急救援活動



サイクロンの影響により2015年7月中頃から続く大雨は、ミャンマーの広い地域で洪水・土砂崩れによる甚大な被害をもたらしました。

AMDAは、ミャンマー医師会と合同で、支援活動の実施を決定。8月14日には看護師1名を派遣しました。

AMDA、ミャンマー医師会合同医療チームは、16日にヤンゴンから約130キロ離れたパッティン市エイアールワディ区で二手に分かれ、イエージ町とナタンチョング町で医療支援活動を行いました。少しずつ水が引き始めていたものの、道路はぬかるみ、人の膝の高さまで浸水している地域も多い状態でした。

ナタンチョング町での医療支援活動はミャンマー医師会の医師5人とAMDA看護師、地元病院の看護師が合同で巡回診療を行い、約4時間の活動で小児60人を含む、計200人の患者を診察することが出来ました。小児患者の主な疾患は、急性呼吸器感染症で、

成人では、労作性呼吸困難、高血圧、筋肉痛を訴える方が多くみられました。

また浸水により、水田が大きな影響を受けており、主食であるお米が不足していたことから、被災者が多く集まるナタンチョング町タウンシップ病院に対して、水300本、米850キロ、ヌードル480袋を支援物資として渡しました。

今後はミャンマー医師会を支援する形で支援活動を行っていく予定で、現地状況を鑑みながら、今後2か月間、毎週日曜日に医療支援を続けていきます。

【派遣者】

柴田幸江／看護師／AMDA インターン

GPSP (世界平和パートナーシップ) 医療事業

モンゴル国視能訓練技術移転プラン事業

8月26日から28日の3日間、モンゴルへ眼科専門医師、技術者を派遣して、視能訓練技術移転事業を実施しました。AMDAでは2010年から毎年モンゴルへ日本から専門家を派遣して、子どもの目の健康に焦点をあてたセミナーや健診等の事業を実施しています。

今年で6回目となる今回は、以前より懸案となっていた郊外での子どもの眼科健診を、地域の関係機関協力のもと実施しました。

ウランバートルから北西400キロにあるブルガン県ブルガン市にあるエルデミーンウルゴー総合学校で106名、県立第二小中学校で123名、そしてヒシグウンドル村の小中学校で56名の眼科健診を行いました。この3日間の健診結果としては、受診した子どもの8%が眼鏡を使用すれば視力が回復する状態、12%が眼科受診が必要な状況でした。眼鏡が必要と判断された子どもたちには、眼鏡のフレームを無

償提供し、今後それぞれにレンズを合わせて眼鏡をつくる予定です。

また、ウランバートル市内でも目に問題のある子ども21名の検査を行いました。健診を受けた保護者からは「子ども達のために日本からわざわざ来て下さって心から感謝しています。また私たち保護者の無責任さにも気づかされる機会となりました。ありがとうございます。」という言葉をいただきました。

小児の眼科健診システムが整っていないモンゴル国内においては、小児の弱視、斜視、その他の眼科疾患は、明らかな症状がないため、発見が遅れたり、放置されたりすることが多く、教育に支障が及ぶ現状があります。子どもの目の問題の8割は適切な時期に適切な治療をすることで明らかな回復が期待されます。

今回の健診結果をもとに、今後はモンゴル国内において子どもの眼科健診を学校保健の一環とするべく、行政、



教育委員会、PTA、眼科協会全体での子どもの目に関する啓発が必要と考えています。そのために、来年は社会全体にその必要性を訴えるためパネルディスカッションを予定しています。なお、本事業実施には岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業としての助成を受けています。

【派遣者】

難波 妙／調整員／AMDA 職員

【協力】

川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科、視能矯正専攻教授 高崎裕子、視能訓練士協会 顧問 守田好江、モンゴル眼科協会、City Optic、後楽ライオンズクラブ

GPSP (世界平和パートナーシップ) 医療と魂のプログラム



多くの方が参列した式典の様子

医療と魂のプログラムとは、戦争や自然災害などで苦しむ多くの人々の身体と心を支援すべく、宗教者や多様な文化・教育の専門家の協力のもと、平和なコミュニティー再興へ導く事業です。

9月10日、モンゴル仏教総本山ガンダン寺において「医療と魂のプログラム」を実施しました。本プログラムは2008年から毎年継続しており、今年で

8回目となります。

ハルハ河戦争(ノモハン事件)から76年目となる本年も日蓮宗様、宗教法人大本様にご参加いただき、ガンダン寺のご住職がたとともに、第二次世界大戦で尊い命を捧げたモンゴル、日本両国の犠牲者のご冥福を祈り、世界平和を祈願しました。

【派遣者】 難波 妙／調整員／AMDA 職員

おかやま国際塾 5 期生 ベトナム研修へ



ホーチミン師範大学にて

おかやま国際塾第5期生3名は、6月7日の開講式から、約2カ月にわたって岡山での準備、研修を行い、8月18日から25日の8日間の日程で、ベトナムでの海外研修を終え、帰国しました。

5年目となる2015年は、ベトナム戦争終結から40年、第二次世界大戦終結から70年となる節目の年。そこで今年度のテーマを「平和のために自分たちの立場でできることは何か」として、プログラムの組み立てを行いました。

事前に、ベトナムの文化、歴史、ベトナム戦争について学びつつ、現地の

学生と直接連絡を取りながら、具体的な海外研修の内容を調整しました。

そして集大成として8月18日から始まった現地研修。前半の4日間は、バリア=ブントウ大学の学生とともに活動。現地企業で働く日本人の訪問やボランティア活動などを行いました。さらに今回のテーマ「戦争と平和」についても、両国の学生が率直な意見を交換し、理解を深めあうことができました。



企業訪問の様子

後半の4日間は、ホーチミン師範大学の学生とともに活動。ベトナム戦争で使用された枯葉剤の影響を受けた子どもたちが生活する病院を訪問し、子

供たちと交流することができました。また戦争証跡博物館やツチトンネルなどを訪れ、戦争がもたらす悲惨さを目の当たりにして大きな衝撃を受けました。ホーチミン大学では国際塾5期生3名がプレゼンテーションを実施し、「自分たちが考える平和とは何か」「それを実現するには、自分たちに何が出来るか」などについて、現地の大学生と話し合いました。

8日間の研修を通じて、塾生3名は日本で調べただけでは決してわからなかったベトナムの姿を肌で感じ、多くの出会いと学びに満ちた、充実した一週間を過ごしました。

なお、国際塾5期生による報告会を、11月に開催する予定です。

【派遣者一覧】

岡山大学 法学部3年 橋本 梨加
岡山大学 法学部2年 本間 祐輝
岡山大学 工学部1年 玄馬 之善
AMDA 職員(米看護師) 岩本 智子(引率)

おかやま国際塾とは：岡山県内の大学生を対象に、AMDAと岡山大学教員が共同で運営する「おかやま国際塾」実行委員会(委員長・菅波茂)で運営されるグローバル人財育成事業です。海外研修を踏まえた研修内容の企画、立案および実施のすべての段階を学生自らが行うことで、国際貢献活動への理解を深めかつ企画および管理能力を身につけ、社会のグローバル化に対応できる人財を養成することを目的として実施しています。2011年度からスタートした本プログラムでは、これまでにモンゴル、インドネシア、スリランカ、フィリピンでの海外研修を実施してきました。

ルワンダ人医師招へい 学校保健研修

8月17日から10月19日の約2か月の日程で、ルワンダよりカリオペ・シンバ・アキンティジェ医師(ルワンダ政府保健省認可病院 ミビリジ郡病院長)を招へいし、岡山県内各所で研修を行いました。

この研修は、ルワンダ国内の児童と幼児の健康状態の改善や、健康保持増進することを大きな目的としています。このための、具体的な取り組みとして学校教育現場での健康診断を継続的、かつ定期的に行うことが必要不可欠と



岡山医療センターでの研修の様子

考えます。カリオペ医師の日本での研修を通じて、包括的な学校保健の取り組みがルワンダ国内で取り入れられるよう、ルワンダ政府に働きかけることも目的の1つとしています。

最初の1か月間で日本語研修を終え、9月14日からは岡山大学大学院環境生命科学研究科を中心に、岡山済生会総合病院や岡山県、岡山市、総社市の保健行政機関、小学校など、日本で行われている児童や幼児健康診断の取り組みについての聞き取り、実際の健康診断の見学、小児科の医療施設訪問等を行いました。

帰国後は、他のNPOとも連携をとりながら、ルワンダ国内に日本の学校保健制度や健康診断をどのように取り入れていくか、実現に向けて具体的な計画を立て、進めていく予定です。

本事業は、岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業の対象事業です。

東北学生ボランティア



漁業ボランティアを体験する大学生ら

8月21日から25日の日程で岡山経済同友会が主催する東北ボランティアバスが運行されました。第5回目となるこの企画には、岡山県内の大学生ら約40人が参加し、AMDAは事前のスケジュール調整から、現地岩手県大槌町でのボランティア受け入れを担当しました。被災地ではボランティア活動や研修を行い、学生らはひとまわり大きくなって帰国しました。このほかにも、8月には岡山県教育庁企画として高校生ら9名、9月には岡山県立大学企画として16名の大学生の研修企画および現地受入などを行いました。

GPSP (世界平和パートナーシップ) キッズプロジェクト/人財育成事業

スリランカ紛争復興支援 スポーツ親善交流和平構築プログラム

8月22日から24日の3日間にわたり、スリランカ北部キリノッチ市の中学校を会場に紛争からの復興支援の一環としたスポーツ、文化、宗教の交流和平事業を実施しました。

これは、1983年より26年間にわたる内戦によって、敵対し交流の無かったスリランカ国内の3民族の青少年を対象に、スポーツや文化などの交流を行うことで、民族間の対話を深め持続可能な和平構築を促進することを目的としています。さらに今年度は、AMDA 中学高校生会の2名が日本から参加し、和平事業と人財育成事業の側面を持ったプログラムとなりました。

今回で5回目となるこのプログラムは、キリノッチが開催場所となりました。キリノッチはスリランカの北部に位置し、停戦中であった2003年から3年間、AMDAが巡回診療と健康教育を実施した地域です。スリランカ国内の3地域4の中学校からイスラム教、仏教、



プレゼンテーションを行う AMDA 中学高校生会の2人カトリック、ヒンドゥー教の学生75名と AMDA 中学高校生会2名が参加しました。22日には、キリノッチ市内にある4宗教の施設を見学し、それぞれの宗教についての相互理解を深めることができました。23日には全員を8つの混合グループにわけ、2種類のワークショップ、各学校の代表と AMDA 中学高校生会によるプレゼンテーション、バレーボール大会やキャンプファイヤーなどを実施しました。プログラム最終日には文化交流を行い、閉会式で締めくくられました。

次世代を担う学生たちが、このプログラムに参加した経験を生かし、平和的な多様性の共存を実現することに期待しています。

【派遣者一覧】

AMDA 中学高校生会 黒田良美
AMDA 中学高校生会 渡代隆介
AMDA グループ代表 菅波茂
AMDA 職員 ニッティアン ヴィーラバーク
AMDA ボランティアセンター参与 竹谷 和子



スポーツ交流の様子

GPSP (世界平和パートナーシップ) 有機農業事業

AMDA マリノ村技術移転プログラム

フードプログラムの実践圃場の一つであるインドネシアスラウェシ島マリノ村に、2015年5月から9月まで約4か月に渡り、AMDA スタッフ1名を派遣し、農業技術指導にあたりました。

5か月間の指導では、直接的な農業技術指導のほか、パソコンを使った農業データ管理方法の指導、秤を導入し

た数値による収量調査の指導なども行いました。これにより収穫量が増加していることが明らかとなりました。また土壌調査、官能検査なども行い、有機農業の実践により、土壌環境が良好になり、収穫した米が市場に流通する一般米に比べて「美味しい」ということがわかりました。さらに、パッケージデザインなど販売促進指導なども行い、結果として収穫した有機栽培米が高値で売れるという嬉しい結果となりました。

今後は、引き続きモニタリングを行いながら、有機栽培米の生産量の増加、市場への安定供給、米の更なる品質向上と安定化などの課題に取り組んでいく予定です。



【派遣者の声】

渡代隆介 (AMDA 中学高校生会)

僕にとって、このプログラムは「1つの国における多様性、そして人と人、国と国のつながりがいかに重要でかけがえないものなのか」という事を生で感じる事の出来たものでした。それを踏まえて、今後、自分は日本で何が出来るのだろうか？それは、まず、スリランカと日本とのこれまでの関係をより多くの人に伝え、スリランカに実際に赴いて、見て、聞いて、感じて、考えたことを発信していくことだと思っています。このプログラムの参加を決めて半年間、迷い、戸惑い、準備に苦労する日々が続きましたが、参加できたことを誇りに思っています。

【派遣者の声】

黒田良美 (AMDA 中学高校生会)

出発時には、事前に準備したものと、今回はいけなかった AMDA 中高生会のメンバー全員の気持ちを持って飛行機に乗りました。プログラムでは、言葉が通じなくてもそれぞれの歌や踊りを通して仲良くなることができました。スリランカの学生たちと一緒に泊まり、コミュニケーションをとる中、性別による教育の差があるのではないかと感じました。そして女性教育の必要性を強く実感することができました。また、滞在中に菅波代表がお話くださった何気ない言葉でも、私にとっては一つ一つが今後の生き方に意味をもたらしてくれる大切な言葉となりました。今回お世話になった、多くの関係者の方々に感謝申し上げます。

【派遣者の声】

引率 竹谷和子
(AMDA ボランティアセンター参与)

国や民族文化が違っていても同世代として理解しあえる、仲良くなれることの素晴らしさに感動しました。和平構築の原点に触れた感じを受けました。言葉の壁は確かにありましたが、スポーツや音楽等でそれをはるかに超えたつながりを実感しました。引率の先生達からも、「すばらしい、またこのようなプログラムを開催してほしい。生徒達も良い学びになった」などの高い評価を頂きました。

遺贈について

AMDでは、大切な財産の一部をお気持ちに沿って、社会貢献の形で支援活動に役立たせて頂いております。三井住友信託銀行株式会社と提携し遺言による寄付をご希望の方に対し、「遺贈による寄付制度」のご利用をご案内できるようにしました。

三井住友信託銀行 遺贈のホームページアドレス

<http://www.smtb.jp/personal/entrustment/succession/will/bequeath/>

遺贈によるご寄付をお考えの方はご案内を送らせていただきます。皆様からのお気持ちとご支援をよろしくお願いいたします。

事務局からのお知らせとお願い

AMDは認定NPO法人です。いただきましたご寄付は税法上の特例措置の対象になります。

ご寄付の際にプロジェクト別のご寄付指定も可能です。



書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。

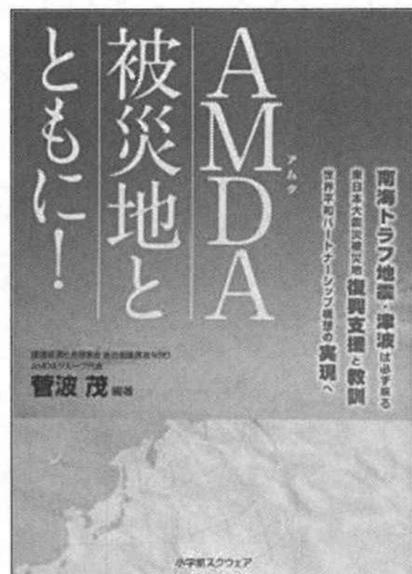


これまでのAMDカードのほか、VISA・JCBなどのクレジットカードでのご寄附も取扱いできるようになりました。

また新たにPAYPAL決済も導入しております。

詳しくはWEBをご覧ください。

AMD 被災地とともに！ 出版のお知らせ



「AMD 被災地とともに！—南海トラフ地震・津波は必ず来る 東日本大震災被災地復興支援と教訓 世界平和パートナーシップ構想の実現へ」が発行されました。書店、オンラインショップなどでもお買い求めいただけます。出版：小学館スクエア
定価：1760円（税込）

※7月から9月の「動き」はWEBをご参照ください

チャリティーコンサートのお知らせ



AMD 鎌倉クラブ主催のチャリティーコンサートが開催されます。皆様のご来場をお待ちしております。

日時：11月29日（日）

開場：13時30分

会場：鎌倉生涯学習センター

料金：1500円（全自由席）

AMDA 南海トラフ地震対応プログラム 第2回 調整会議 開催報告

9月12日、総社市のサントピア岡山総社で「第2回AMDA南海トラフ地震対応プログラム調整会議」を開催しました。

県内外の自治体関係者、医療機関や企業など多方面から約170人が出席しました。第1回の会議を受け、実際に南海トラフ地震の発災を想定したシミュレーションイメージの共有、関係者の準備状況や課題、今後の取り組みなどが発表されました。

また被災地支援に駆け付けると名乗



りをあげてくださる医療機関の方々の紹介などもありました。11月9日には輸送・通信を中心としたシミュレーションの実施を予定しています。

大規模災害に備えて 災害時連携協定の締結

8月12日徳島県美馬市との「大規模災害時の支援に関する協定」の調印式を執り行いました。

また9月12日には輸送分野の包括連携を目的とした「連携協力に関する協

定書」の調印式が行われ、両備ホールディングス株式会社、牛窓ヨットクラブのそれぞれとの調印を行いました。



牧田美馬市長(右)



両備ホールディング(株) 原代表取締役専務(左)と牛窓ヨットクラブ磯辺副会長(右)

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



山陽放送株式会社様



総社ブラジリアンコミュニティ様



MS & AD インシュアランスグループ様

名桜大学国際学群 国際文化専攻 3年 石原優子



私は大学で国際貢献を行っているサークルに所属したことをきっかけに、支援活動に興味を持つようになりました。インターンシップでも人を助ける活動を行っているところで仕事を体験させていただきたいと考えていたので、AMDAでの受け入れをお願いしました。

2週間という短い期間ではありましたが、英語での報告書を元に記事を書いたり、VISAの申請書類を作成したりなど様々なお仕事をやらせていただき、とても貴重な経験でした。本当にありがとうございました。

このインターンシップでの経験を元に、今後に生かしたいと思います。

インターン紹介

岡山県立大学外国人客員研究員 アルチャナ シュレスタ ジョシ



私は今年の5月からAMDA本部でインターンとしてお世話になっております。この春、岡山県立大学の看護学博士を取得、現在は同じ岡山県立大学の外国人客員研究員としても、ネパール看護に関する研究をしています。4月のネパール大地震では、AMDA医療チームの調整員としてネパールに行くことができました。一刻も早くネパールの被災者に緊急医療を提供できるようにしていただきました、AMDAのみなさんには心より感謝しています。現在もネパールの復興支援活動に携わる仕事をしています。今後ともどうぞよろしく願います。

看護師 柴田 幸江



以前からAMDAに憧れがあり、特に菅波代表の「救える命があればどこへでも」のモットーは、看護師として心を打たれるものがありました。

インターンのきっかけは2011年と2015年にボランティア看護師として、タイ・フィリピン・マレーシアへ緊急支援に行ったことです。活動終了後に事務所へ戻った際は、スタッフの皆さんに温かく迎えていただき、このような方々とぜひ一緒に働いてみたいと思うようになりました。また実際に働いてみて、AMDAはどのような方々に支えていただいているのかを知ることができました。スタッフ1人1人の能力の高さもAMDAの魅力です。日々ご指導いただき感謝しています。